

品なり、里人の言に、上製の種をアチと稱し、煎種をなしと呼ぶ、其れ品題猶多かり、
品目

近江の信樂茶品殊に多し、山中の村民園畝を開きて蒸焙を事とす、煎種の絶品、此地天下第一なり、山吹一森の名のみあまねく聞ゆ、山吹は本宇治の品題なり、今も猶かの地に出す、萬代霜花湖水花橘、政所と云郷に出と、等の種皆絶品也、其餘の品題多く聞ゆるは、園民漫に題するものに似たり、又京師の鬻戸等、私に品第を設けて、名と物と戸々にたがふも有べし、又彼とこれと合製して一品となるも有べし、沽酒家の醇薄辛甘を鹽梅して、戸々に品題を稱ふるに同じ、又昔の一森は今の山吹にて、品第二階を進ましむとも云り、大觀茶話に、相鬻相争、互爲剝竊、參錯無據、不知茶之美惡、在于製造之巧拙而已、豈園地之虛名所能增減哉、焙人之茶、固有前優而後劣者、昔負而今勝者、是亦園地不常也、云を見れば、はやくより此厄有しを去らる、唯々市に求人、茶は眞の面目にあふ事難し、洛北妙心寺の花園、近江の永源寺の越溪、永雲寺製美濃の虎溪、永保寺製播磨の仙靈、栗賀生蓮寺製山僧の手製、利の爲ならざるは佳品也、それを名として郷民の出せるは品降れり、梶尾高雄の産、昔は上製の種ありし也、深瀬茶など聞えしも有しを、今は佳品なしと云り、諸國の名産甚多し、伊勢の河上、伊賀の服部、大和の室生、紀の高野、尾張の内津、美濃の養老、駿河の蘆久保、西にては肥前のうれし、野上首なるべし、肥後の鹿子尾、筑前の鶯、其餘柳川相樂等、きこゆ多くは鑑炒製にて、味醇く清韻乏し、又唐茶とて、商舶の將來れる者は、近年佳品なし、武彝、松蘿、龍井、蘭茶等の名あれども、眞物にあらざるべし、其它は丹波の草山、香泉寺、播磨の鹿谷、日向茶の類は、常食の品にて、文雅の友にあらず、

〔煎茶早指南〕他國はおのづから他國に上茶を出す所おふけれど、我國尾張にては内津の村民久しく茶を製し出す、其外賣物にあらぬ上品の茶子翠、嵐がまゐりたる分左の如し、